

# ならら企業散策

144

## 木の香る健康な住まい

### 徳矢住建株式会社

**Q 創業からの経緯についてお聞かせください。**

昭和26年に父が創業し、昭和47年に徳矢住建株式会社を設立しました。創業当初から建築の請負の仕事をしてきたわけではなく、当時は木毛（もくめん）という木くずで梱包資材を作っていました。原材料が松の木で、近隣の山に生えている松を削って作り出荷しておりましたが、その後高度経済成長期に入り、梱包資材はプラスチックや発泡スチロールの人工素材へと移り変わる一方、建築部材の需要増加に伴って、当社も木毛業を廃業し、製材業へ進んでいきました。しかし、製材業だけでは時代の流れには逆らえず、建築請負関



徳矢和士郎社長。穏やかな笑顔に親しみを覚えます。



本社正面。この扉の向こうは木の香りでいっぱい！

らも軸足は今の業態に置いて新分野へ展開していくことが大切だと思えます。

**Q 公共建築物の木造化が進められていますか？**

当社も木造だけではなく、鉄骨造、鉄筋コンクリート造も手掛けております。それゆえそれぞれの工法にはコスト面も含めて長所短所があることが分かります。コンクリートは耐久面で優れているように思われがちですが、木造も内装を不燃化したり、燃え代を含めて設計するなど適切な処置を施すことで追従できます。一般住宅の耐震補強にいたっては木造の方が工期、工法、コスト面で手軽であることが多いと考えています。

やはり木造の良さというのは日本の気候風土にあった建て方であり、木、紙、土の自然素材が持つやさしさは、日本人の心に安らぎを与え、「飾ることなく落ち着ける場所」を感じていただけるものとお客様にご説明しています。また余談かも知れませんが、環境問題や産業廃棄物をどう処理するかが問題となる今の時代に、木造であればいずれは自然に還っていくものなので地球に対して負荷を与えないのではないのでしょうか。

**Q 製材業と建築業を比べた場合、ビジネス形態の大きな違いは？**

製材業は父の代から現在も続けております。製材業と建築業の違いは明らかです。製材業というのは木を加工するだけでそれは建築材料を提供する仕事です。それに対して請負業、建築業というのはその材料を使って家を建てる、家を提供する仕事です。単純なことをいえば製材業というのは作って売ればそれでおしまいです。家を建てた場合、例えば雨漏りがしてきたり、建具の建付が悪いなどは、や



左から徳矢社長、徳矢氏（設計、現場管理）。楽しいお話ありがとうございました。

**Q 新築をお考えのお客様へのアプローチはどのようにされているのですか？**

長年「木」に携わってきたことから得た建築の知識と経験、技術で、それを現場に反映させることができる社員そのものです。特別な営業はしておりません。

また、これまでの実績を直接ご覧いただくのも当社をより一層知っていただける手段です。奈良市文化財である柳生芳徳禪寺本堂の屋根解体修理をはじめ、県、市が施策する町並み保存のための古民家修理などにも携わっており、木造住宅の専門家をアピールできるものと思えます。

一般の方にとって「工務店」はどこか閉鎖的で入りにくい存在です。扱う商品（家）も値段が高く、いわゆる「言い値」であると考えられがちです。そんなイメージを払しょくするために月に一度、本社を開放して誰もが気軽に参加できる親子木工教室やガーデンング教室、それにガレージセールなどのイベントを開催、直接社員が応対してつながりの輪を広げる努力をしています。

ガーデンング教室では参加者がそれぞれに何種類かのお花を選び寄せ植えをしていただきます。イベントを開催することで当社にお気軽に来て頂け、会社の雰囲気を感じていただければ幸いです。

親子木工教室では当社が資材をカットして提供し、椅子や本棚などの製作のお手伝いをします。

ガレージセールでは、現場で余った木材で作った家具やスノコが売り出されたり、タイヤ、クロス、網戸やふすまの張り替えなども



本社前でのガレージセール。思わぬ掘り出し物が見つかるかも…

格安で提供しています。これらの商品を通じて木の特性や家づくりの基本を感じ取っていただければと思っています。ちなみに今年ガレージセールは6月1日（土）に予定しておりますので、よろしければ是非お越しください。

**◎ 最近ではリフォームを考えているお客様も多いように思われるのですが…**

新たに作り上げるものであれば自分たちの設計図どおりに作っていくのですが、リフォームとなると元々の設計図がない場合もあります。当社が施工させていただいたお客様であれば図面もあるのですが、100年以上も前に建てられた古民家だと図面などなく、担当者が何度も現場に足を運び現状を確認しながら



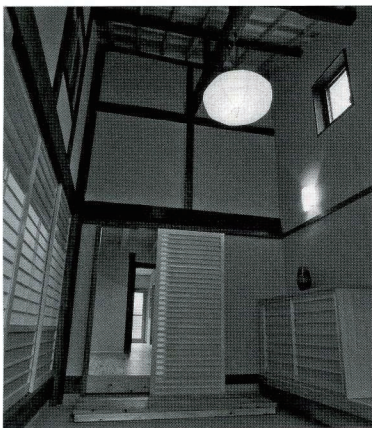
本社全景。R24と一条通り交差点北側。この看板が目印です。

お客様の要望を確認し、職人と打ち合わせをして出来る限り希望に沿ったリフォームをご提案します。

また、リフォームは意外お金がかかります。お客様からすれば簡単に思える工事内容であっても柱や壁を取り除いたり移動させたりするにはその家の構造を十分に理解し、すでに生活されている居住空間の安全性も考慮に入れる必要も生じます。これらの対処には経験がものを言うところが大きいですね。

**◎ 引き渡し後、お客様との付き合いについて**

父の経営理念である「建築の施工責任は無限である」とおり、完成後も長いお付き合いをさせていただいております。20年を経て水回り箇所が傷んできたので補修工事のご依頼をいただいたり、高齢化や家族構成の変化に伴うリフォームの相談を受けたり、また40年たった今、空き家になってしまったのでどうにかならないかといった相談も頂戴しています。どのようなご相談やご依頼であっても、徳矢住建を信じて関わっていただいたお客様には誠心誠意で対応をさせていただきます。



古民家再生。東包永町H邸

**◎ 商工会議所への要望についてお聞かせください**

様々な業種の方がたくさんおられ、当社も一会員としてはぜひ活用できればと考えています。そこで会議所が中心となって、異業種交流会を開いていただき、お互いにネットワークを広げていく機会を設けていただければと思います。今6次産業という言葉をよく耳にします。お客さんが求めるものがどんどん細分化されていく中で、より高次になっていければと思います。

**【取材協力】 帝塚山大学 守田優香**

**事業所概要**

- 事業所 / 徳矢住建株式会社
- 代表者名 / 代表取締役 徳矢和士郎
- 所在地 / 奈良市法蓮町465-1
- 従業員数 / 10名
- 事業内容 / 総合建設業

**◎ つぶやきカメラン**

引違いの本社入口を開けると社内全体に心地良い木の香りが漂ってきました。インタビュを行った打合せ室はもちろん、社内すべてが板張りです。床には紙で作られたかわい子犬、天井にもペーパークラフトの精巧な鷹（タカ）が吊り下げてありました。女性に理由を伺うと、新築の設計図が仕上がると、それをもとに器用な設計士さんが精巧なミニチュア家屋を施す様に披露、将来の住まいを3Dで実感していただくために作るらしいのですが、この特技？が転じて子犬や鳥のモデル、さらにお城や平城京も作って訪問客の目を楽しませているとのこと。親しみのあるホンワカした社風を感じました。

こんな社風を象徴するような社長の温厚な笑顔は、決して「工務店は敷居が高い」とは思えませんでした。

本日は貴重なお話ありがとうございました。